

「え！木を切っているの？」 「大丈夫、むしろ自然がゆたかになります」

シンポジウム

# 武蔵野の 雑木林をたのしむ



モズ(東京都絶滅危惧種)

## 「森の若返り」で生き物が元気になった

境山野緑地(境4-5)の雑木林の一部を伐採したら、切株からの芽がグングン育ち、さまざまな鳥や虫たちが集まってきました。その様子を、生き物の美しい写真で報告するとともに、専門家の講演を交え、森(雑木林)の若返りの意味と楽しさを目いっぱいお伝えします！

とき: **3月1日(日)**

**午後1時30分～4時**

(1時開場)

ところ: **武蔵野スイングホール**

**10階スカイルーム**

(武蔵境駅北口出て正面左、徒歩2分)



ウラナミアカシジミ(東京都希少種)

### ◆報告(武蔵野の森を育てる会より)

境山野緑地における「森の若返り」の経過と効果

### ◆講演「雑木林再生の意義を考える」

・吉川 正人 氏(東京農工大学大学院・准教授)

・金本 敦志 氏(NPObirth自然環境マネジメント部・次長)

### ◆質疑応答(お茶・お菓子でなごやかに)

※最後に雑木林を未来へつなぐための宣言を採択します

●定員:100名(申込順、要事前申込)

●参加費:無料

●申込:武蔵野の森を育てる会

FAX:0422-54-8892

Eメール:

info.mnomori@gmail.com

(お名前、住所、電話番号を明記)

●問合せ:上記Eメール又は下記電話

090-5533-2316(同会・田中)



Eメール



吉川 正人 氏



金本 敦志 氏

森の若返り(境山野緑地)



伐採前(夏)



伐採直後(冬)



伐採後9カ月(秋)

鬱蒼とした雑木林を伐採、切株から芽がグングン育っています。

主催: NPO法人市民まちづくり会議・むさしの、武蔵野の森を育てる会

後援: エックス山等市民協議会、吉祥寺東コミュニティ協議会、Greenグリーン吉祥寺、コミュニティファーム、市民が憩えるプレイス西通りをつくる会、ジモッピーネット、西部コミュニティ協議会、玉川上水ネット、玉川上水を守り育てる武蔵野市民の会、作ろう！みんなのジモトWa-shoiパートナーシップ、どっぼ子どもクラブ、西久保一丁目緑をまもるまちづくり協議会、西原自然公園を育成する会、フェアトレードむさしの、福生萌芽会、プレイス木のぬくもりプロジェクト、NPO法人プレーパークむさしの、まちなか農家プロジェクト、Meetむさしの、武蔵境活性化委員会、武蔵境商店会連合会、武蔵野市郷土史会、武蔵野市社会教育を考える会、武蔵野史談会、NPO法人武蔵野農業ふれあい村、武蔵野ふれあい古文書会、NPO法人ワーカーズユープ (27団体、50音順)

共催: 武蔵野市

## 武蔵野の雑木林とは？

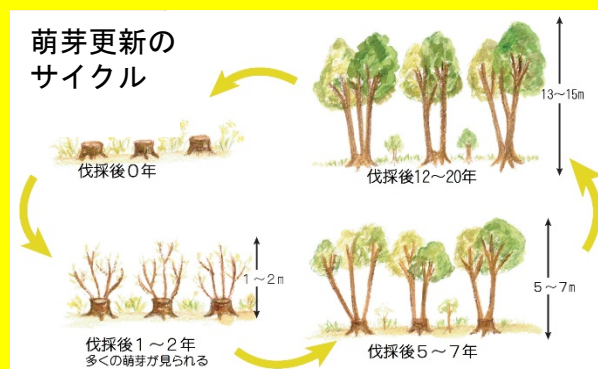
武蔵野台地はもともとススキ野原でしたが、江戸時代中期までの新田開発に伴いコナラやクヌギを中心とする雑木林が作られました。落ち葉を堆肥(腐葉土)として利用し、木を伐って薪や炭として燃料にしました。これが**武蔵野の雑木林**と呼ばれるものです。

雑木林の木は定期的(12~20年ごと)に燃料として伐採され、そのあと切株から出る萌芽を育てるという循環(**萌芽更新**)で維持されていました。萌芽が育つためには十分な光が必要なため、予め決めた範囲の木をすべて伐採していました。

毎年場所を変えて順番に伐っていたので、さまざまな樹齢の区域がモザイク状になっていました。こうした多様な環境に適応して、さまざまな生物が生息していたのです。

境山野緑地には、武蔵野の雑木林として育てること

を目標に、武蔵野の森を育てる会と市立第二小学校の児童が2005年12月に植樹して育てた、約400㎡の林があります。雑木林の保全手法の検証のため、武蔵野市と同会の協働により、2019年2月にこの林を伐採し、萌芽更新による樹木の更新を試みています。本シンポジウムでは、この経過と効果を報告します。



環境省『里地里山保全再生計画作成の手引き』より転載

## 都立浅間山公園の雑木林再生

都立浅間山(せんげんやま)公園(約9ha)は府中市に所在し、ムサシノキスゲなど貴重な動植物が生息しています。数年前に同公園指定管理者の西武・武蔵野パートナーズがコーディネーターとなり、市民団体、大学、行政との協働により、大きく生長して暗くなった雑木林の再生に着手。園内各ゾーンの目標類型

を決めて計画的に行っています。本シンポジウムの講師である吉川氏はこの事業のアドバイザー、金本氏は指定管理者の中心的なスタッフです。当日の講演では、この事業の成果や武蔵野の雑木林へのご提案などをお話いただけます。



## 講師プロフィール

**吉川 正人 氏**(東京農工大学大学院農学研究院・准教授)

専門は植生管理学、植生学。博士(農学)。森林、湿原、河川、都市などの植生とその保全に関する研究を行っている。府中市生物多様性地域戦略検討協議会、「浅間山を考える会」などを通じて地域の自然環境保全に関わる。著書に『植生管理学』(分担、朝倉書店)など。

**金本 敦志 氏**(特定非営利活動法人NPObirth 自然環境マネジメント部・次長)

昆虫など自然環境調査の経験が豊富で、さまざまな動植物が生きていける「まちなかの緑」のあり方を探究している。都立浅間山公園の指定管理者として自然環境保全と環境教育を担当。地域団体と幅広く連携し、協働型雑木林保全モデルである「浅間山公園保全管理ガイドライン」を完成させた。

## 主催団体の紹介

### NPO法人市民まちづくり会議・むさしの

「武蔵野市都市計画マスタープラン」の策定(平成12(2000)年策定)に参加したことをきっかけに生まれた「まちづくり」NPO法人。広く一般市民を対象として、まちづくりについて市民が主体的に行動し、まちづくりへの参画やまちづくりに関する調査研究、イベント等を通じて、暮らしやすいまちを築き、豊かな社会の実現に寄与することを目的として活動しています。

### 武蔵野の森を育てる会

武蔵野市緑のまち推進課との協働により、武蔵野市立「境山野緑地(さかいさんやりょくち)」(9,188㎡)に豊かな生態系の雑木林を育てるための保全活動を行う緑ボランティア団体。2017年度東京都公園協会賞優秀賞、2018年度生物多様性アクション大賞入賞。境山野緑地の雑木林は、玉川上水の未来遺産プロジェクトの対象地です。

(チラシ作成2020.1)